

令和5年7月19日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	いもち病 (穂いもち)	並	7月上旬葉いもち発生量：並 気象予報：気温高(-) 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>葉いもちの発生しているほ場では、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除する。さらに多発する場合は穂揃期にも薬剤防除する。</li> <li>令和3年度病害虫発生予報第4号P5「これから注意を要する病害虫」も参照する。</li> </ul>
	紋枯病	やや多	7月上旬発生量 ：並[発生なし] 前年8月下旬発生量：多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>穂ばらみ期に発病株率15%以上の場合、薬剤防除する。その後、病勢が抑えられない場合は、穂揃頃に追加防除する。</li> <li>前年に発生が多かったほ場では特に注意する。</li> </ul>
	ごま葉枯病	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生が多い場合は薬剤防除する。</li> </ul>
	斑点米カメムシ類	大型のカメムシ類	多	7月上旬本田発生量：多(+) 7月上旬雑草地発生量 ：多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並
カスミカメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメ)		並	7月上旬本田発生量：並 7月上旬雑草地発生量 ：やや少(-) 気象予報：気温高 アカヒゲホソミドリカスミカメ(-) アカスジカスミカメ(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>P5「これから注意を要する病害虫」も参照する。</li> </ul>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	イネクロカメムシ	並	7月上旬発生量：並 6月予察灯誘殺数：並 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 気温の高い日中は株元において薬剤がかかりにくいいため、薬剤防除は朝や夕方に行う。
	セジロウンカ	並	7月上旬発生量：並 6月予察灯誘殺数：並 [発生なし] 気象予報：気温高（+）	・ 7月中旬頃に株当たり 10 頭以上寄生していた場合には薬剤防除する。
	ヒメトビウンカ	多	7月上旬発生量：多（+） 6月予察灯誘殺数：並	・ イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 ・ 縞葉枯病の感染は主に幼穂形成期前の吸汁によるため、幼穂形成期後のヒメトビウンカ防除は縞葉枯病の発生予防効果は低い。
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	7月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。
	イモキバガ	並	7月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	
ラッカセイ	白絹病	並	7月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 病株は周囲の表土と共に除去する。 ・ 収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。
	褐斑病	並	7月上旬発生量：並 気象予報：降水量並	・ 多発ほ場では薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	さび病	やや少	7月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 発生初期から薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	やや少	7月上旬発生量：少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 高温乾燥期に多発しやすいので、今後の天候に注意する。 ・ 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌処理と併せて、即効性が期待できる薬剤の地上部処理などにより、防除する。
	ネギコガ	並	7月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 高温乾燥期に多発しやすい。 ・ 幼虫は、葉内に侵入して食害するので、初期防除に努める。
サトイモ	アブラムシ類	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 薬剤防除は、葉裏にも十分かかるようにいねいに行う。
	ハダニ類	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	6月フェロモントラップ誘殺数： 並 7月上旬発生量 秋冬ネギ：並 [発生なし] サトイモ：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 ・ 薬剤防除の場合、幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に行う。
	オオタバコガ	多	6月フェロモントラップ誘殺数： 多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 幼虫は見つけ次第捕殺する。 ・ 施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。 ・ P7「これから注意を要する病害虫」も参照する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	黒星病	並	6月下旬発生量：並 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
	シンクイムシ類	やや多	6月下旬発生量：並 [発生なし] 6月フェロモントラップ誘殺数：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 加害が見られる場合は、収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。
	ハマキムシ類	やや多	6月下旬発生量：やや多（＋） 6月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
	ハダニ類	並	6月下旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 増殖が速いので、発生初期から防除する。 ・ 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を助長しないよう、同一系統の剤は年1回の使用とする。
温州ミカン	そうか病	やや多	6月下旬発生量：多（＋） 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
	ミカンハダニ	やや少	6月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 夏期（6～8月）防除の判断は寄生葉率で30%を目安とする。
果樹共通	カメムシ類	並	6月フェロモントラップ誘殺数：並 6月果樹予察灯誘殺数：やや少（－） 気象予報：気温高（＋）	・ カメムシ類の発生量は地域差があるため、果樹園への飛来状況は地域や園地により異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら薬剤防除する。

## Ⅱ これから注意を要する病害虫

### 斑点米カメムシ類（特に大型斑点米カメムシ類）

7月上旬の水田周辺の雑草地すくい取り調査において、大型斑点米カメムシ類の平均捕獲数は5.71頭（1地点当たり20回すくい取り（以下同じ）；平年1.50頭）と過去11年中1位であった。うち、クモヘリカメムシは3.69頭（平年0.14頭）、ホソハリカメムシは1.76頭（平年0.96頭）とそれぞれ過去11年中1位であった。

向こう1か月の気象予報では気温は高くなることが予想されるため、斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動の活発化に注意する必要がある。

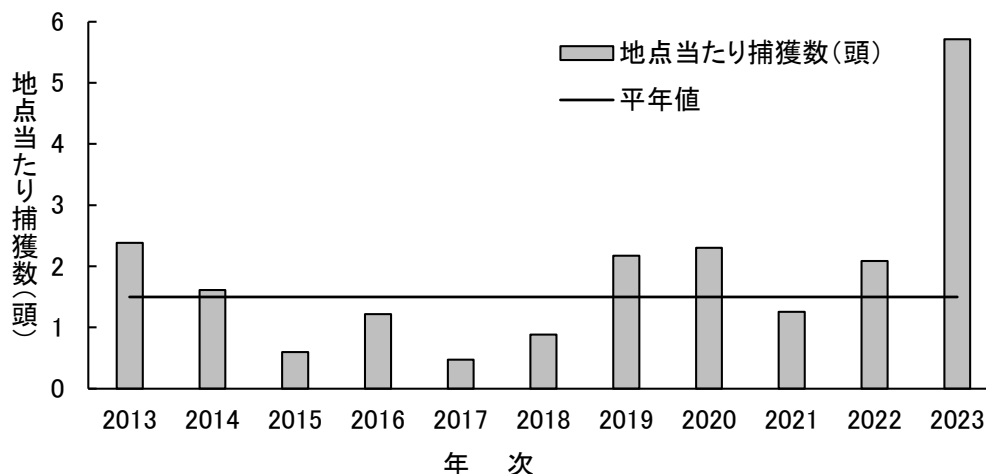


図 雑草地すくい取り調査における大型斑点米カメムシ類の年次別捕獲数(6月下旬～7月上旬)

#### (1) 防除について

##### 1) 防除適期

多発生した場合は以下の2回防除する。

##### ①穂揃期（出穂期3日後）

成虫の飛来ピークであり、大型斑点米カメムシ類はすぐに産卵するため、迅速に防除する。

##### ②乳熟期（出穂期から15日後頃）

水田内でふ化・生育した幼虫の密度が高いため、防除は幼虫密度の低下を目的に行う。

##### 2) 薬剤防除

表1を参考に本田の薬剤防除を行う。粒剤は水に溶けた成分が水稻に吸収されて効果を示すため、出穂期に湛水散布し、1週間程度湛水状態を保つ。

#### (2) 留意事項

##### 1) 畦畔の除草時期

雑草防除は出穂期の2週間前までに実施し、予めカメムシの密度を下げておくことが重要である。但し、出穂期の2週間前を過ぎている場合は水田周辺の雑草地や畦畔の草刈りは行わない（斑点米カメムシ類の水田侵入を増やすおそれがあるため）。

##### 2) 出穂時期

周辺より出穂が早いか、反対に特に遅い水田では集中的に加害されやすいので注意する。

表1 斑点米カメムシ類の主な防除薬剤

系統名の後の（）内は作用機構分類コードを示す。

薬剤名	使用時期/同一成分使用回数	10a 当たり使用量
有機リン系（1B）		
エルサン粉剤3DL	収穫7日前まで/2回	3kg
スミチオン乳剤	収穫21日前まで/2回	1,000倍 60~150L
スミチオン粉剤3DL	収穫21日前まで/2回（注）	3~4kg
合成ピレスロイド系（3A）		
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで/3回	3~4kg
トレボンMC	収穫14日前まで/3回	2,000倍 60~150L
ネオニコチノイド系（4A）		
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫7日前まで/3回	2,000倍 60~150L
スタークル/アルバリン粉剤DL	収穫7日前まで/3回	3kg
スタークル/アルバリン粒剤	収穫7日前まで/3回	3kg
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで/3回	4,000倍 60~150L
ダントツ粉剤DL	収穫7日前まで/3回	3~4kg
ダントツ粒剤	収穫7日前まで/3回	3~4kg
フェニルピラゾール系（2B）		
キラップフロアブル	収穫14日前まで/2回	1,000~2,000倍 60~200L
キラップ粉剤DL	収穫14日前まで/2回	3~4kg
キラップ粒剤	収穫14日前まで/2回	3kg

注) スミチオン粉剤3DLの出穂前散布は1回まで

表2 水田畦畔の雑草に使用可能な主な除草剤

除草剤名	種類	同一成分 使用回数 (注)	成分
ラウンドアップマックスロード	非選択性 茎葉処理	3回以内	グリホサートカリウム塩
バスタ液剤		2回以内	グルホシネート
ザクサ液剤		2回以内	グルホシネートPナトリウム塩
カーメックス顆粒水和剤	土壌 処理	1回	DCMU
ダイロンゾル		1回	DCMU

注) グルホシネートとグルホシネートPナトリウム塩は同一成分として数える

## オオタバコガ

オオタバコガは、トマトを始めナス、ピーマン、キャベツ、レタス、非結球レタス、ししとうなど多数の作物の果実、花蕾、新芽、茎、葉などに被害を及ぼす害虫である。

農林総合研究センター病害虫防除課では、フェロモントラップによるオオタバコガの発生消長を、印旛、海匝、山武、安房、君津の5地域8地点で調査を行っている。

県下全域での誘殺状況は、4月中旬以降、平年値を上回って推移し、6月においても同様の状況にある(図1参照)。

しかし、各地点の6月の誘殺数を見た場合、誘殺状況は大きく異なっている(図2～9参照)。

現在、誘殺数が少ない地域であっても、急激に発生が多くなることがあり、次世代への発生量にも影響を及ぼすことが考えられることから、発生が認められた場合には、適切に防除することが重要である。

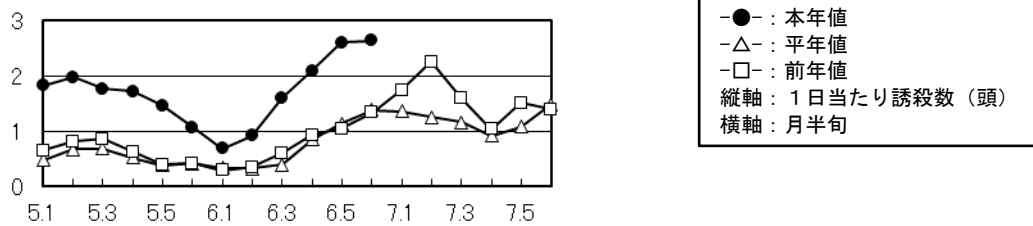


図1 オオタバコガ(平均)

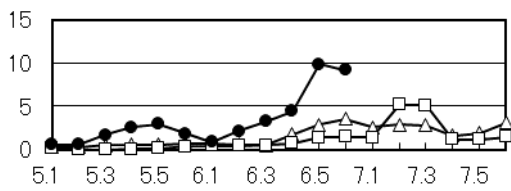


図2 オオタバコガ(銚子市)

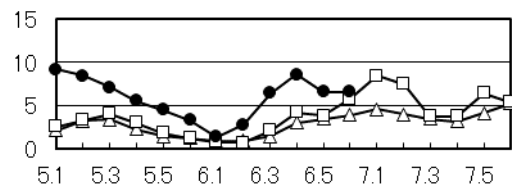


図3 オオタバコガ(木更津市)

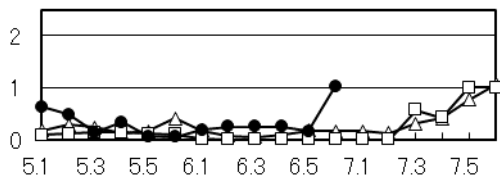


図4 オオタバコガ(富里市)

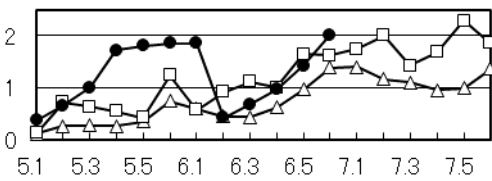


図5 オオタバコガ(旭市)

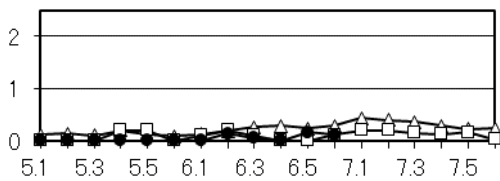


図6 オオタバコガ(横芝光町)

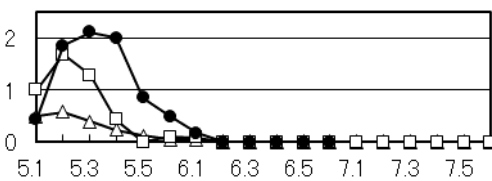


図7 オオタバコガ(山武市)

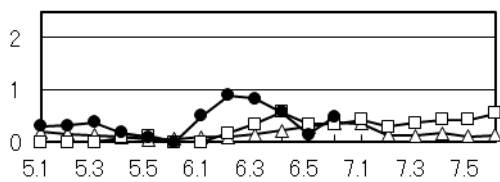


図8 オオタバコガ(南房総市)

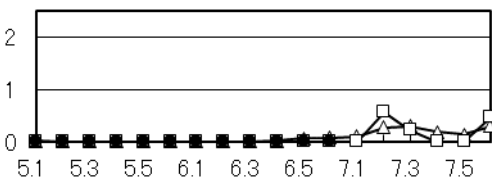


図9 オオタバコガ(鋸南町)

(1) 防除対策

- ① 食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- ② 新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多い。摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。
- ③ 防虫網などにより施設内への成虫の飛び込みを防止する。
- ④ 本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。
- ⑤ 蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたほ場を冠水することで、土中の蛹を死滅させる。
- ⑥ 防除剤は下表による害虫防除によるが、中齢幼虫以降になると薬剤の防除効果が著しく低下してしまう。早期発見、早期防除に重点を置く。常発地ではフェロモントラップを設置するなどして発生消長を確認しながら幼虫の防除を行う。

(2) オオタバコガに登録のある防除薬剤

① 化学合成農薬

系統名または薬剤名の後の()内は作用機構分類コードを示す。

薬剤名	トマト	ミニトマト	なす	ピーマン	キャベツ	レタス	非結球レタス	ししとう
カーバメート系(1A)								
ランネート45DF						○		
ジアミド系(28)								
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○
プレバソフロアブル5	○	○	○	○	○	○	○	○
アベルメクチン系、ミルベマイシン系(6)								
アニキ乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○
アフーム乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○
スピノシン系(5)								
スピノエース顆粒水和剤	○	○	○	○		○	○	
ディアナSC	○	○	○	○	○	○	○	
IGR剤								
アタブロン乳剤(15)	○	○	○	○				○
カウンター乳剤(15)	○	○	○	○		○	○	
カスケード乳剤(15)	○	○	○	○	○	○	○	○
ファルコンフロアブル(18)	○		○	○	○	○	○	○
マッチ乳剤(15)	○	○	○	○		○	○	○
マトリックフロアブル(18)	○	○	○	○		○	○	○
その他								
アクセルフロアブル(22B)	○	○	○	○	○	○	○	
コテツフロアブル(13)	○	○	○	○	○	○		○
トルネードエースDF(22A)	○		○	○		○	○	
プレオフロアブル(UN)	○	○	○	○タ	○	○		○タ

タ：タバコガ類での登録

② BT剤

薬剤名	菌株	病害虫名	希釈倍数	野菜類	野菜類(注1)	とうもろこし
エスマルクDF	kurstaki	オオタバコガ	1,000	○		
エコマスターBT	aizawai	オオタバコガ	1,000	○		
クオークフロアブル	aizawai	オオタバコガ	400	○		
サブリーナフロアブル	aizawai	オオタバコガ	500		△	
ジャックポット顆粒水和剤	aizawai kurstaki	オオタバコガ	1,000		▲	
ゼンターリ顆粒水和剤	aizawai	オオタバコガ	1,000		▲	○
チューンアップ顆粒水和剤	kurstaki	オオタバコガ	2,000~3,000	○		
デルフィン顆粒水和剤(注2)	kurstaki	オオタバコガ	1,000	○		○
トローフロアブルCT	kurstaki	オオタバコガ	500~1,000	○		
フローバックDF	aizawai	オオタバコガ	1,000	○		

使用基準は発生初期(収穫前日まで/-)である。

注1 △：はくさい、えごま(葉)を除く。▲：はくさいを除く。

注2 デルフィン顆粒水和剤は野菜類での登録があるが、はくさいで用いる場合は薬害のおそれがあるので注意する。



### Ⅲ 参考資料

#### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：7月上旬、果樹：6月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(葉いもち)	発病度	1.76	1.32	2.44	
	紋枯病	発病度	0.00	0.02	0.03	
	ごま葉枯病	発病度	0.23	0.62	0.51	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.17	0.67	0.01	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.02	0.03	
	ニカメイガ	被害株率(%)	1.14	0.02	0.00	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.07	0.17	0.36	
	セジロウンカ	本田すくい取り捕獲虫数 注1)	0.05	0.10	0.03	
	ヒメトビウンカ	本田すくい取り捕獲虫数	6.02	0.71	0.84	
	ツマグロヨコバイ	本田すくい取り捕獲虫数	0.25	0.53	0.96	
	フタオビコヤガ	本田すくい取り捕獲虫数	0.04	0.19	0.60	
	大型のカメムシ類	本田すくい取り捕獲虫数	2.06	0.25	0.19	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	本田すくい取り捕獲虫数	0.01	0.06	0.04	
	アカスジカスミカメ	本田すくい取り捕獲虫数	0.14	0.15	0.00	
	クモヘリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数 注2)	3.69	0.14	0.37	
	ホソハリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	1.76	0.96	1.01	
	イネカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.03	0.03	0.03	
	シラホシカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.24	0.34	0.64	
	大型のカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲虫数	5.71	1.50	2.09	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	2.53	3.08	4.01	
アカスジカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	12.40	21.54	26.06		
サツマイモ (印旛・香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.00	0.14	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	0.60	2.14	1.40	
ラッカセイ (千葉・君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	褐斑病	発病度	4.00	5.05	1.55	
	黒渋病	発病度	0.10	0.01	0.00	
	白絹病	発病株率(%)	0.00	0.06	0.00	
サトイモ (印旛、香取、君津)	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.10	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	21.2	22.5	28.5	
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	15.7	16.2	17.7	
秋冬ネギ (長生・山武)	黒斑病	発病度	0.14	0.60	0.14	
	さび病	発病度	0.00	1.58	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.13	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	5.57	13.59	14.14	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.30	0.00	
ネギハモグリバエ	被害度	0.00	1.44	0.57		
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	1.09	1.78	2.62	
	黒星病	発病果率(%)	0.50	0.97	2.03	
	赤星病	発病葉率(%)	0.06	0.26	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害果率(%)	0.03	0.00	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.11	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	3.53	4.44	3.91	
ニセナシサビダニ	被害新梢率(%)	2.21	4.71	0.18		
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.40	0.10	0.16	
		葉の発病度	1.04	0.10	0.16	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.06	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	7.00	16.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	0.30	0.00	
ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.32	0.00		

注1) 調査ほ場で捕虫網を20回振り、すくい取った成幼虫の平均値

注2) 調査ほ場周辺の畦畔や路肩などの雑草地で捕虫網を20回振り、すくい取った成幼虫の平均値

トラップ月間誘殺数（6月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備 考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	9.67	1.91	0.00	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.00	0.30	0.00	
	トビイロウンカ	〃	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	〃	1.67	1.34	0.00	
	ツマグロヨコバイ	〃	7.00	132.91	1256.67	
	フタオビコヤガ	〃	2.00	1.81	2.33	
	ニカメイガ	〃	2.00	0.47	0.67	
	コブノメイガ	〃	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	〃	4.00	4.57	4.33	
	クモハリカメムシ	〃	0.00	0.10	0.00	
	ホソハリカメムシ	〃	0.00	0.20	1.00	
	シラホシカメムシ類	〃	0.00	-	-	
	イネカメムシ	〃	2.33	0.47	2.67	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	12.33	13.91	10.00	
	アカスジカスミカメ	〃	14.67	26.62	9.67	
ミナミアオカメムシ	〃	0.00	0.17	0.67		
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	1.00	2.63	9.00	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.00	2.90	10.00	
	ツヤアオカメムシ	〃	3.00	7.71	22.00	
	カメムシ類	〃	4.00	13.24	41.00	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	6.22	5.84	6.59	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.27	0.31	0.35	
	コナガ	海匠	1.90	6.29	2.27	
	ハスモンヨトウ	県内全域	3.37	3.79	1.80	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.44	1.21	0.27	
	オオタバコガ	県内全域	1.75	0.73	0.76	
	タバコガ	県内全域	0.47	0.51	0.18	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.98	1.12	1.97	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.04	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.98	1.16	1.97	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.33	0.40	0.90	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.80	1.65	0.66	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	2.13	2.06	1.56	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	2.57	9.20	15.33	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.04	0.16	0.21	
	クサギカメムシ	〃	0.15	0.52	0.70	
	カメムシ類	〃	2.77	9.87	16.24	
	マルボシヒラタヤドリノエ (天敵)	〃	1.05	1.39	0.97	

注) 種類別の単位の違いに注意

## ○気象予報

7月13日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

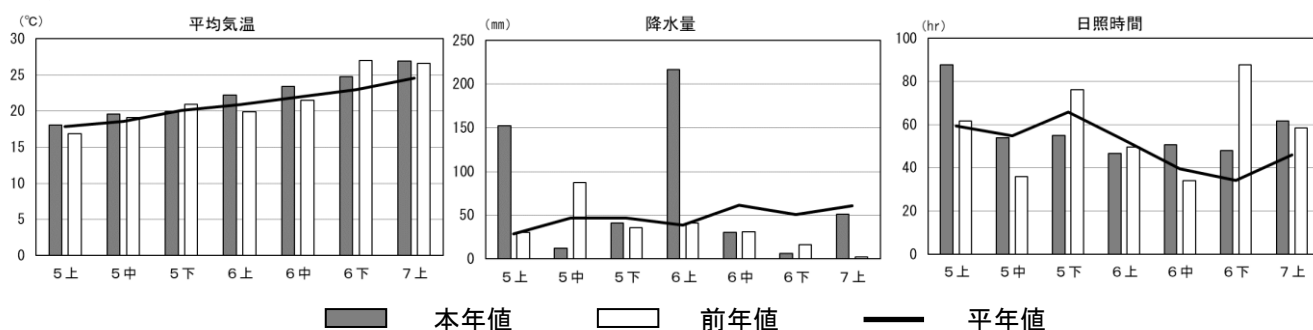
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	30	60
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(7月15日～8月14日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	26.3	24.4	25.9
降水量(mm)	112.4	101.9	136.0
日照時間(hr)	181.7	205.8	206.3



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は8月18日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)